

実践ノート

「看図を探せ!!」

—長崎県央看護学校第13回看図アプローチ研究会報告—

山下雅佳実¹⁾・田中伸子²⁾・渡邊令子²⁾・中野真由美²⁾・吉野千春²⁾
 隈上貴子²⁾・中村加代子²⁾・西村優子²⁾・山口奈津子²⁾・藤井愛美²⁾・丹羽佳世²⁾

キーワード：看図アプローチ・長崎県央看護学校の取り組み・創造的研究会・アクティブラーニング

1. こんにちは!山下です!「看図アプローチ」です!

みなさん!こんにちは!山下です!お久しぶりです!お元気ですか?新型コロナウイルス感染症により、いろいろな活動が自粛となってしまい、残念な日々を送っていますが、これも「いのち」を守るためです!!仕方ありません!!「できないこと」を嘆いても、ぜんぜん面白くありませんから、「できること」を探して、精いっぱい楽しませようね~!ということで、山下は最近、楽しいことをしました。

これです(図1)。さて、発問です。

「このビジュアルテキストには、どんなものがありますか?5つ以上、みつけてください。みつけるお時間は2分です。では、今から計りますので、2分で5つ以上みつけてくださいね。」

みなさん、5つ以上みつけましたか?きっと、これを読まれているみなさんは「看図アプローチ」もしくは「看図作文」に精通された方だと思いま

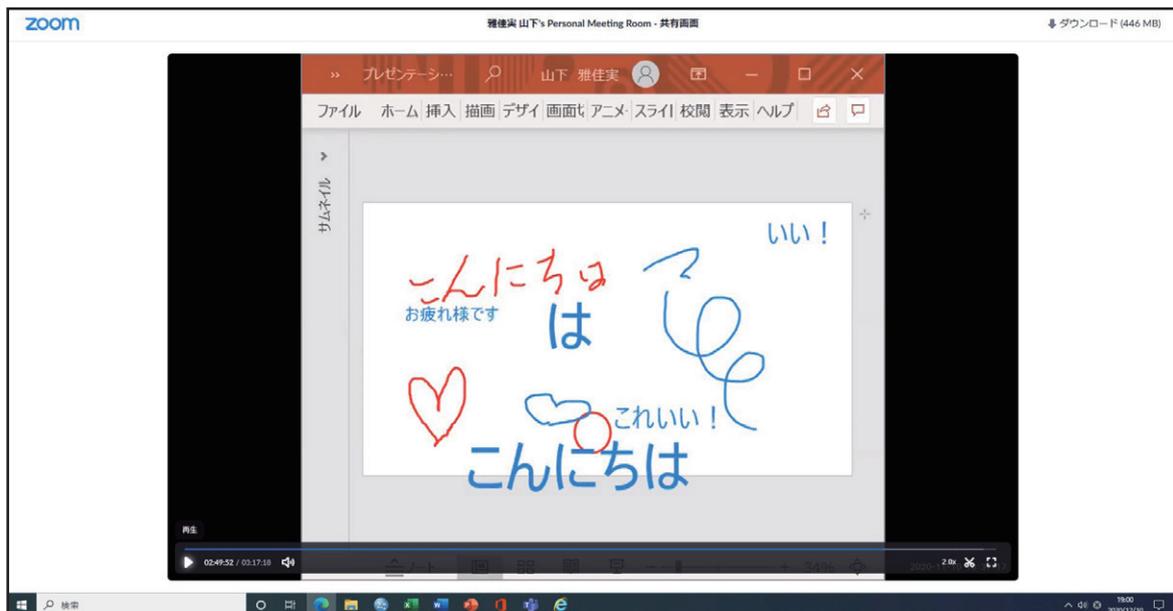


図1 山下の楽しいこと

1) 中村学園大学短期大学部
 2) 長崎県央看護学校専門課程

すので、みつけていると思います。続けて、次の発問をさせていただきます。

「これは何をしているのでしょうか？まずは一人で考えてください。考えるお時間は3分です。では、一人で考えてみてください。」

個人思考は十分にできましたか？続けて、集団思考にいきますね！（図2）

みなさん、集団思考できましたか？

（みなさんの心の声）

「どうやってするんだ??」

「山下は何を考えているんだ??」

あははは！そうですよね！確かに、「どうやってするんだ??」ですよね。そして、「山下は何を考えているんだ??」ですよね。そうですよね、ご意見ありがとうございます（笑）。申し訳ありません（笑）。

では、山下の最近あった楽しいこと（答え）をお伝えしますね。図1は、「第13回看図アプローチ研究会」をWeb会議システム「Zoom ミーティ

ング」を活用し開催したときの共有した画面です。みなさんはすでに発見されていると思いますが、この画面共有は研究会開始から2時間49分52秒が経過しています。やはり研究会を2時間49分52秒もやると、研究会に参加した方たちの頭はおかしくなってしまうんですね……というわけではありません（笑）。

これは、「今後も続くオンライン授業をよりよくするためには、どんな機能をつかうとよいのか」をみんなで考えているところです。そう、「今後も続くオンライン授業をよりよくするためには、どんな機能をつかうとよいのかをみんなで考えているところ」が、「これは何をしているのか」という発問の答えになります。

すごいと思いませんか？何度も繰り返しますが、すでに研究会開始から**2時間49分52秒**が経過しているんです！そして録画は3時間17分18秒まで続いています。みなさんはきっと、今までに多くの研究会や学会に参加された経験があたりだと思えます。図3をみてください。

2時間46分29秒も経過した研究会で、参加しているすべての方が笑顔です。コロナ禍でマスクをつけているにもかかわらず、笑顔であること



図2 集団思考の様子



図3 研究会の様子 (一部加工しています)

がわかるほどです (山下は自宅で一人だったのでマスクを着用していません。プチ情報ですが、コロナ禍で活動自粛したため5キロ太りました)。これが、「看図アプローチ研究会」です。参加した人を笑顔にする。そして、真剣に授業と向き合う。こんな素敵な研究会，なかなかないと思います。しかも今回はオンラインの開催だったにもかかわらず，対面での開催に劣らない，いやむしろ対面よりも内容の濃い研究会ができました。

II. 「Workshop」は突然に

新型コロナウイルス感染症は，全世界の人々に多大なる影響を与えています。それは「看図アプローチ」も例外ではありません。2020年3月14日(土)に早稲田大学で開催予定だった「2019年度第2回全国看図アプローチ研究会」は，感染拡大防止のために中止を余儀なくされました(シクシク)。山下は「みんなに会える♪発表できる♡」と頗る楽しみにしていましたが，すべてが「おじゃん」になってしまいました。参考までに，その時準備していた資料の一部を(どさくさに紛れて)掲載させていただきます(図4・5)。さらに，2020年2月下旬に予定していた山下の心のより

どころである「看図アプローチ研究会」(in 長崎県中央看護学校)も延期となり，しばらくの間，山下は失望落胆のあまり食事ものを通らなくなっていました。

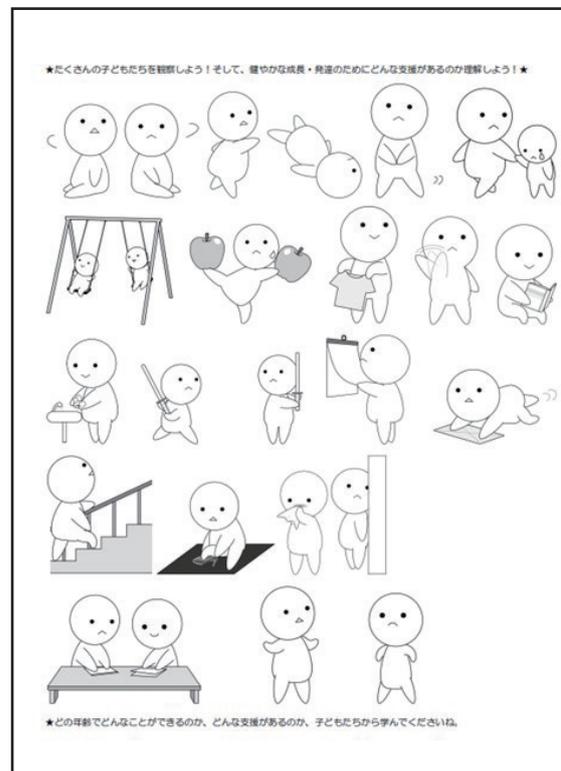


図4 教材「観察実習用きょうちゃん」



図5 教材「この子の名前はあさひくん」

失望落胆してから8か月が過ぎたある日の夜、1本の電話が鳴り響きました。

■「先生、お疲れ様です～。田中です（^v^）」

あの「看図アプローチ」の実践校として超有名な長崎県看護学校専門課程（以下、県央）の教務課長である田中先生です！山下はチューハイ片手に、「お疲れ様です～！」といつも調子で答えつつ、おつまみのチーズを口に含みました。

■「先生！研究会しましょ（^v^）。うちの先生たち、このコロナ禍ですごく頑張ってるんです。他にはないような授業を展開してて。ここまでとにかく走ってきたから、先生たちの今までやったことを振り返る機会をつくりたいんです（^v^）」

田中先生は、県央の先生方がとても頑張っていること、ほかに類をみない授業を実践していること、そしてそれは、看図アプローチを学んだおかげであることを楽しそうに、そして嬉しそうに話

されました。まさに（^v^）な感じです。失望落胆していた山下にとって、この電話はまさに福音でした！田中先生の声を聴いているだけなのに、そのお姿は輝いていました（電話なので見えないんですけどね）。

日程調整もある程度済み、最後に研究会のテーマを話し合いました。というよりも、田中先生はテーマをすでに決められていました。

「テーマは『看図を探そう』をお願いします。それ以上はみんなに言いません（^v^）。フッフフ。自分の実践から『看図』を探してもらいます（^v^）。『そこに看図はあったのか？』、面白いと思いませんか（^v^）。フッフフ（^v^）」

正直、山下は耳を疑いました。なぜかという、そもそも新型コロナウイルス感染症の影響で、対面授業はすべて中止となり、計画していた授業は変更を余儀なくされ、加えて看護基礎教育の根幹ともいえる「臨床実習」は中止……てんやわんやで学内実習を組み立てて、何とか半年つないできた先生方全員が、「看図アプローチ」で授業実践しているとは考えられないからです。数名は「看図アプローチ」で授業実践していたとしても、授業準備に充てた時間はごくわずかのはずです（これを読まれている教職員の方はよくわかると思います）、全員が実践しているとは考えにくいんです。でも山下は、

「田中先生！それ、すっごく面白いです！！
それでいきましょう！！」

と、すかさずお返事しました。「看図を探せ」「そこに看図はあったのか」って、すっごい「ぶっこんだ」テーマですが、山下は県央の先生方を信じています。県央の先生方は「やる」のです。それが「県央プロダクション」なんです。

でも、研究会の数日前にかかってきた電話には、さすがの山下も度肝を抜かされましたね。

「みんなにテーマ言ってなくて(^▽^)
何日かあるから、
大丈夫でしょう(^▽^)(^▽^)」

田中先生……せめてテーマは伝えていたほうがよかったのではないのでしょうか。。。。。

Ⅲ. それぞれの「生成的認知過程」と「探索的認知過程」

2020年11月10日(火)9時から「第13回看図アプローチ研究会」(オンライン)を開催しました。県央のすべての先生が研究会へ参加され、それぞれの実践をテーマに沿って実践報告されま

した。つまり、県央のすべての先生が「看図」を実践されていたんです(図6, 7, 8)。しかもその実践を振り返りそれぞれの先生が課題も見出していました。研究会では、「どこを改善したらいいと思いますか」「もっと良くするためにはどうしたらいいと思いますか」など、ほかの先生方に助言を求め、次年度に活かそうと一生懸命にみんな考える会になりました。実はこの時、山下はとても感動していました。もちろん、研究会が開催できたことだけでも感動なんです。先生方の「成長」に感動したんです。どんなふうに成長しているのか、表1と表2を比べていただいたら、わかると思います。



図6 「患者のもっている力を探してみよう」
(精神看護学実習)



図7 「私のせいで…」(母性看護学実習)



図8 「訪問看護」(在宅看護論実習)

表1 2017年度実施「第3回看図アプローチ研究会」へ期待すること

<ul style="list-style-type: none"> ・看図アプローチを活用した授業で使用した写真や図を、自分で撮影しなおして準備します。教材について指導を受けたいです。(2名) ・自分の授業でどのように活用するか具体的に考えることができていません。どのような写真や画像がよいかわかりません。(3名) ・写真や絵図から外挿する段階への導入がうまくできませんでした。発問づくりの方法がよく理解できていないのではないかと考えています。発問づくりの指導を受けたいです。 ・看護過程の学習に看図アプローチを活用することについて、山下先生からヒントをいただきましたが、そこから具体的にどのような授業を準備するか現在思案中です。考えてから参加したいと思いますので、ご指導を受けたいです。 ・形態機能学(運動器)について、看図をどのように活用するか悩んでいます。私は、在宅看護論の担当なので、在宅看護論で活用できないかも考え中です。 ・協同学習、看図アプローチをカリキュラムの柱にするためには、どのようなカリキュラム構築が必要か考えたい。 ・「看護と法律」について看図アプローチで授業ができないか考えたい。「わかりにくい」を探すためのポイントを知りたい。 ・第1回目の研修会を欠席しました。看護技術演習、看護技術の習得に看図を活用する方法を考えたいと思います。 ・残念ながら、今回は2日間参加できません。しかし、精神看護の統合失調症の疾患理解、症状の理解に活かせないだろうかと考えています。

表2 2020年度実施「第13回看図アプローチ研究会」の感想

<ul style="list-style-type: none"> ・研究会では、自分がやったことを振り返ることができました。また、別の教員の看図を使った実習の発表からは、たった一枚の写真からこれだけ考えて、看護を深く学ぶことができると思い、感心しました。 ・コロナの影響で、授業や実習がオンラインになり、協同学習や看図の活用をどうするか迷いながら行っていました。しかし、授業や実習で工夫した内容を、教員間で共有できたことやオンラインでのグループワーク、動画の活用、学生意見の書き込みなども工夫することができるとわかり、新しい発見があったので、今後の授業に活かしたいと思いました。 ・発表することで課題が明確になりました。また、コロナ禍の中でもオンラインで研究会することで、山下先生からのアドバイスも頂けて課題解決に繋がりました。ありがとうございました。 ・今回の研究会に参加してみて、現在の自分がやっていることが再認識できました。自分のビジュアルテキストや動画が、どのような看護の価値を見出すのか、言語化でき、皆さんに評価をいただき、安心して授業へ取り組めることに気づくことができました。今回のような振り返る時間はとても貴重であり、大切な時間であることにも気づくことができました。 ・コロナ禍で授業方法や実習方法の変更を余儀なくされました。方法の変更は、これまで当たり前だと思っているものからの脱却であり、これまでにない新しい発想が必要な体験でした。まさしく常識を疑い、勇気をもって挑戦する試みであったと思っています。オンラインによ

る授業も実習も、先生方一人ひとりが工夫をし、失敗から学びながら作り上げていったものです。そのような過程を含めて、授業や実習の実際をオンラインで発表しあう機会を得て、他者の実践から学び、新しい課題を発見できたと感じています。オンラインだからこそ、いつでもどこに居ても、学びあうことができます。そのような体験をこれからも大切にしていきたいと思っています。

- 実施している内容を発表することで、これでよかったと安心しました。自信を持って実施していこうと思えました。他の教員の方法を知ること、実施している内容をもっと変化させたいと意欲が増しました。
- 模索しながらの8か月でした。どう協同学習や看図を取り入れたらよいのか考えながらの日々でした。今回、他教員が実施した発表を共有し、様々な工夫を知ることができました。特に写真の中に書き入れるという方法は、学生個々の考えを知る方法として、活用できると感心しました。今回改めて、対面での学習の良さを実感したと共に、学習方法を共有すること、共有することの良さも実感しました。
- 対面ではなかったですが、看図アプローチ研究会が久々に開催できて、とてもうれしかったことがまず第1です。看図アプローチ研究会は、ほんとに「はぁ～(^.^)」「へえ～」と思うことばかりで（思わず声にも出ちゃいますが）脳が刺激されまくります。2つめは、コロナ禍でいかに実習を行えるか、日々変わる状況に駆け回りました。一切、後ろは見ないで前だけ向いていたという感じでしょうか…これが正しいかどうかとも評価もできず振り返る余裕がありませんでした。しかし、今回の看図アプローチ研究会で、自分が行った学内実習を発表させてもらい、実際に他の先生方へ共有できたことで、なぜかホッとした感じがしました。初めてのことばかりで不安だったのだと思います。看図アプローチ研究会で頂いた意見を次につなげようと前向きになれました(^_^)

「看図アプローチ研究会」は今年の夏で4年目を迎えました。鹿内先生の授業づくりのセミナーをたまたま受講した県央の先生が「看図は面白い！勉強会したい！」と、教務課長である田中先生に懇願し、2017年夏、鹿内先生を招聘し県央で研究会を開催したのが始まりです。山下は鹿内先生から学ぶべく、鹿内先生がご担当される研究会や勉強会、学会等にはできるだけ参加していました。県央での研究会もそういう感じで参加しました。県央の先生方は学びたいという意欲が高く、研究会を定期的に開催しようということになりましたが、鹿内先生は北海道にいらっしゃるの、その代役として山下が研究会を担当させていただくことになりました。それからは2～3か月ごとに研究会を開催し、2019年12月には「第12回看図アプローチ」を開催することができました。

研究会のファシリテーターとして鹿内先生の代役に抜擢された山下でしたが、教員を受講生としたファシリテーターははじめてです。研究会の最初のほうは、県央の先生方の心優しいサポートと笑顔に、勇気と元気とやる気をもらいながら、山下はファシリテーションさせていただきました。それは今も変わらずで、支えていただいていると感謝しています。第5回研究会の時には、田中先生から「もう研究会をやめようかと思っていました」と衝撃発言がありました。でもその後、「やっぱり看図ですよ。看図だからこそ、語り合えるんですよ」と瞳を潤ませながら話してくれた田中先生の顔は今でも忘れることができせん。

県央での「看図アプローチ研究会」は、山下と県央の先生方が試行錯誤しながら創りあげてきた

ものです。そして今回、このような状況の中、それぞれの先生が、それぞれの探索活動が続けてくださったおかげで「第13回看図アプローチ研究会」が開催できました。研究会のテーマも、テーマから自己の授業実践を振り返り実践発表して下さったことも、そして先生方の授業実践も、まさに「看図」です。

山下は、県央プロダクションとともに創りあげた「看図アプローチ研究会」が「看図」だと思っています。これからも田中先生を筆頭に、県央の先生方と探索活動が続けていきたいと思います。みなさんも一緒に「看図」を探してみませんか(^ ▽ ^)。

参考文献

- 鹿内信善 2007 『[創造的読み]の支援方法に関する研究』 風間書房
- 鹿内信善 2015 『改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方:看図アプローチで育てる学びの力』 ナカニシヤ出版

注 本研究の一部に科学研究費 19K10791 をあてた。

2020年12月11日受付
2020年12月15日受理